

きょうりょう
アーチ橋梁（1号橋・2号橋）

指定種別：市指定文化財

指 定 日：昭和 55 年 3 月 28 日

所 在 地：釜石市甲子町(小川)

制 作 年：明治 9 (1876)年～明治 13



鉱山寮釜石鉄道の小川支線に設置されたレンガ製構造物です。明治 9 (1876)年、明治政府は官営釜石製鉄所を建設に伴い、鈴子～大橋間に全長 18 km の鉱業専用鉄道「工部省鉱山寮釜石鉄道」の敷設を開始されました。この工部省鉱山寮釜石鉄道支線として、燃料となる木炭を製鉄所に輸送するために敷設されました。

小川の山中で作られた木炭は、わらびの(現在の日向ダム付近)にあった集積場から小川地区を縦断し、小佐野まで支線で運ばれ本線と合流しました。本線同様に当時導入されたイギリスのシャープスチュアート社製機関車が走っていたと考えられます。

支線は全長約 4.9 km で、4 か所の橋梁があったとされています。アーチ橋梁 1 号橋・2 号橋は橋の名称が付されていますが、実際は支線のカルバート(暗渠)としての役割が強かったと考えられます。

明治 15 年 12 月に官営釜石製鉄所の廃止が決定し、工部省鉱山寮釜石鉄道も 2 年半ほどで廃止となったことから、小川支線も同時期に廃止となったと考えられます。

1 号橋は小川町と桜木町を繋ぐ上の橋の北西約 50m の小川川右岸の中井沢に、2 号橋は旧小川小学校跡地近くの呑ヶ沢に設置されました。構造は主体部は赤色レンガのイギリス積みで、欠円アーチも同じく赤色レンガで構築されていますが、基礎部分は石材の布積みとなっています。

明治時代の鉄道関連レンガアーチとしては、現存しているものでは最古級の建造物として、昭和 55 年に市指定文化財に指定されました。現在は市道桜木町上小川線の下に残っていて、当時のレンガ積みの技術を見ることができます。

